

平成 30 年度 自己評価結果報告書

1. 本園の教育目標

幼児の主体的な活動としての遊びを十分に確保し、遊びを通して周りの世界に興味をもち、探索し思考する過程を大切にした教育を目指している。また、幼児期にふさわしい生活が展開されるように、教師との信頼関係に支えられた生活、興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活、友達と十分にかかわって展開する生活がなされるように配慮した教育を目指している。

子どもの姿

○のびのびと活動する子

- ・元気に遊ぶ子—進んで遊びに取り組み、身体をのびのびと動かして遊ぶ子
- ・思いやりのある子—動植物に親しみをもって接する子、友達と関わりを楽しめる子
- ・豊かな感性をもつ子—考えて工夫できる子、思いを表現できる子

2. 本年度、重点的に取り組む目標や計画

課 題	具体的な取り組み方法
異年齢交流の取り組み	<p>異年齢交流を通して、子どもたちが年齢の枠を越えて共に学び合い、社会性や協調性、思いやりの気持ちなどを育む。</p> <ul style="list-style-type: none">・クラスを 2 グループに分けて年少・年中・年長の縦割りグループを 4 つ作る。※兄弟姉妹は一緒のグループ・クラス 2 グループには、担任と副担任が各グループに分かれてつく。・各グループに名前を付ける。各学年の先生が 3 人担当になる。1 年間同じグループで異年齢活動をする。 <p>【活動内容】</p> <ul style="list-style-type: none">○登園時の活動 ・年長→年少組と年中組にお世話に行く。○9 時 30 分 ～10 時 30 分 ・戸外遊び ※雨の時は遊戯室や保育室○月曜日は、一日を通して交流 ・園外保育、おにぎり日

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評 価 項 目	取 組 み 状 況
異年齢交流の取り組み	<p>一年を通して、月曜日は「にこにこデー」として縦割り 4 グループで異年齢交流活動を行うことができた。しかし、10 月と 11 月は発表会の舞台練習のタイムテーブルの配分の都合から活動を休止した。再開した時に年中組で「にこにこデーいやだ」という声が出た。3 学期は年長組が学年行事で参加できず、年少中で行った際、年中組さんがとてもお世話をする姿が見られた。</p> <p>ペアを組んでの活動は、男の子も女の子も、小さい子に優しく関わる</p>

	<p>姿がたくさん見られた。 月曜日は、「にこにこデー」会議を行った。</p>
--	---

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

① 異年齢交流活動について

・今年度は、異年齢交流活動の取り組みに重点をおき、毎週月曜日を「にこにこデー」として一年間を通しての活動を行い、年下の子どもたちへの思いやりや年上の子どもたちへの憧れ・大きくなることへの期待などを、心の中に育んでほしいという願いのもと行うことができた。
それに伴い、月曜日の午後は、「にこにこ会議」と称し、グループの教師で活動の反省や、子どもたちの様子を伝えあい、次回の計画を立て、より良い活動となるよう工夫していった。課題もたくさんできたので、来年度はさらに充実した活動となるよう計画内容を工夫していく。

② 教育課程・指導について

・今年度から幼稚園教育要領が改訂されたが、自園の教育目標や教育課程の見直しや編成に取り組むことができなかった。しかし、次年度に向けて教育目標の見直しをし、幼稚園教育要領に基づき、地域の環境・現状を考慮し、教育目標の柱を立てた。来年度は、育てたい子どもの理想像を先生たちと共有し、その姿をイメージしながら教育課程を編成していく。年間→月案→週案→日案などに落とし込み、実践～振り返りを繰り返しながら、より質の高い教育を目指していく。
・教職員体制は、途中退職や産休育休者がいたが、すぐに求人募集を行い、体制を整えることができた。
・職員会議や学年会議などで、「報告・連絡・相談」を基本に話し合い職員全体で共有しているが、園長・教頭・主任など保育の現場の中で、先生たちの保育の在り方を話し合い、一人一人の職員の課題に向けて指導していくことが必要と感じた。
・園内研修は、年度のはじめに体育指導・わらべ唄、学期ごとに講師の先生をお招きして、課題をもって取り組み保育の実践に役立つように行った。園外研修も、毎年全職員で参加するものや個々の職員で参加したい研修会などで学び保育の質の向上につなげることができた。

③ 教育内容について

・一日の生活のリズムを整え、見通しを持って安心して毎日子どもたちが園生活をすごせるようにした。戸外遊び→みんなでする活動→昼食→室内遊び→帰りの会。春夏秋は十分に豊かな自然活動で五感を使って四季を感じて遊びこめる環境も整えることが出来た。(冒険の森の迷路や休憩所)しかし、11月頃から冬にかけて戸外遊びは長すぎることに、室内遊びも十分にさせてあげたいとの意見が出て、秋と冬の季節の変わり目からは、戸外遊び→室内遊び→みんなでする活動→昼食→室内遊び→帰りの会と流れを変えて室内外の遊びの環境を整えた。
・年長組みの活動の取り組みが充実していて、子どもたちも活動ごとに成長をみることが出来た。幼少交流・農園活動(一人ひとりで栽培)プール遊び、歩くスキーでは、滝野あしりべつの滝までの往復コースを全員完走することが出来た。

④ 地域の幼児教育センターとしての役割・子育ての支援について

・未就園児教室は、どんぐりクラブ・プチどんぐりクラブの入会が定員を上回り、キャンセル待ちの方もいた。今年度から、入会したお子様に、こどものとも社の月刊絵本を毎月配本した。言葉の獲得は授乳期の母親の発声法からはじまるといわれている。ことばを育てるためのこどもとの関わりのひとつとして家庭でも親子でよい絵本を楽しむ時間をたくさん作ってほしい。また、今年度は、一日体験入園を9月の入園説明会だけにし、5月から9月まで、園児の戸外遊びの活動時間に園庭開放を行った。毎回新しい親子さんが参加して、園児たちと交流することができた。
・就労する保護者の方が増え、朝なかよしや最終時間までの利用される方が多くなった。教育課程にかかわる教育時間終了後も、子どもたちの生活や遊びのリズムを整え、戸外遊び→おやつ→室内遊びとした。来年度は、担任・副担任が曜日交代で預かり保育の担当を行い、教育課程終了後の保育を充実させていく。

⑤ 保健管理について

幼児に対する日常の健康観察、感染症対策(手洗い消毒・保育室温度湿度管理・除菌)

⑥ 安全管理について

- ・園庭遊具の安全点検並びに修繕
- ・来年度は、フェンスの設置をする予定です。

⑦ 組織経営について

- ・教職員への就業規則の見直しをし、職員に周知した。

⑧ 教材・教具・遊具の設置

・絵本・玩具、サッカーゴール、農園の苗や種、駐車場のフェンス修繕、冒険の森整備(迷路・憩いの場)等

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
① 保育の計画	今年度は新改訂された幼稚園教育要領に基づき、地域の環境・現状を考慮し、教育目標の柱を立てることができた。来年度は、育てたい子どもの理想像を先生たちと共有し、その姿をイメージしながら教育課程を編成していく。年間→月案→週案→日案などに落とし込み、実践～振り返りを繰り返しながら、より質の高い教育ができるようにしていく。 <ul style="list-style-type: none">・毎週、学年会議で取り組んでいく。・幼稚園教育要領の読み合わせをする。・個人記録→振り返り(環境の再構築)
② 研修や研究	個々の教師が自分の課題を把握し、その課題が達成できるような指導体制をとる 例)課題シートを作成し、個々の教師の課題を年度初めに掲げ、課題を達成するための目標を立て、学期末ごとに達成に向かっていか実践～振り返りを繰り返しながら課題を達成していけるよう指導していく。
③ 異年齢交流の取り組み	異年齢の子どもとのかかわりを通して、年下の子どもたちへの思いやりや年上の子どもたちへの憧れなどを育む。 今年度の反省や課題を次年度の活動の中で活かし、異年齢の活動ならではの育ち合う姿をたくさんみられるように活動内容の工夫や研究をしていく。 <ul style="list-style-type: none">・にじグループ(ひまわり・もも・ゆり)とそらグループ(たんぼぼ・ちゅうりっぷ・すずらん)に分けて活動。※ 戸外遊び・戸外や遊戯室で集団遊びやゲーム・園外保育・行事・グループの中で、さらに 6 つのグループをつくって活動→例にじの〇〇先生グループ(1年間同じグループで行うか、2・3 回組み替えるかは、子どもたちの活動の様子をみながら検討していく→ペアさんも替わ

	<p>る。)</p> <p>※集団遊び・製作などペアでできる活動など</p> <p>※室内遊びの時は、クラスの玩具を持っていく。廃材遊びやラQ積木・かるたなど交流がみられる活動を設定する。</p> <p>【活動内容】</p> <p>○登園時の活動 ・年長→年少組にお手伝いに行く(4月5月)</p> <p>○月曜日は、「にこにこデー」</p> <p>・グループで活動・昼食(おにぎり日)</p>
--	---

6. 学校関係者評価委員の評価

<p>○幼稚園の環境が広く自然豊かであるが、どこからも園庭に入っていけるので不審者などの侵入がとて心配である。</p> <p>○異年齢交流活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年から月曜日がにこにこデーになり、とてもいい活動だと思う。 ・(年長)最初は嫌がっていたが(ペア)、最近では近所の小さい子と遊んであげられるようになった。 ・(年中)嫌がっていたが、先生と一緒に関わってくれることによっていやだと言わなくなった。年長になったら小さい子のお世話ができるようになってほしい。 ・(年少)にこにこデーが大好きで、楽しみにしていた。にこにこデーは、今後も続けてほしい。 <p>○サッカー大会や発表会で子どもが元気に活動するようになって嬉しい。</p> <p>○男の先生がいる幼稚園は、子どもたちにとってもとてもいいと思う。優しく、厳しく叱ってくれるところもいい。</p> <p>○今年は、蜂が多かったので心配だった。</p> <p>○バスの乗車時間が長くなるが、一斉登園が良くて入園した。</p> <p>○保護者交流の場として、以前に行っていた「しゃべり場」が良かった。</p>
--